



2021年 9月27日
第37号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



「2021年度駅業務執行体制の再構築について(その2)」の提案を受ける

【提案内容】

1. 駅業務委託の解除 川崎新町駅の『無人化』
2. 販売体制の見直し 川崎新町・国道・鶴見小野（上下線）・弁天橋・浅野・安善・武蔵白石・浜川崎駅（南武支線側・鶴見線側）の『券売機の撤去』
3. 実施日 2022年3月1日
4. その他 駅業務委託の解除に伴い、着札の回収業務を行う。『尻手駅・鶴見線営業所』

組合	会社
・目的と根拠を示すこと。	・鶴見線はIC利用率が高い。経営体質の抜本的な強化、コスト削減による赤字の解消。
・収入をどう確保していくのか。不正乗車対策の考え方を示すこと。	・乗車駅証明書を利用して、着駅に申告してもらう。不正乗車が一定数居るのは認識している。
・駅の変革施策と併せて社員の成長はどのようにするのか。	・乗車駅証明書のご利用で降りる駅で運賃表を確認して頂き、集札箱に運賃を入れて頂く。それを回収する作業が新たに発生する。鶴見線営業所社員が鶴見駅と浜川崎駅を除いた各駅を、尻手駅社員が南武支線と浜川崎駅の鶴見線側も回収する。鶴見線営業所はやったことのない作業が発生する。そこのスキル向上がある。
・券売機撤去でのコスト削減はいくらなのか。券売機の稼働率と売り上げ実績を示すこと。	・老朽化取り替えて、1台1000万円程かかる。IC利用率が90%となり、券売機は金額的には低い。
・集金方法と回金人数について示すこと。	・基本的には複数人。方法は鶴見線営業所との相談となる。月1回で負担とは考えていない。
・どこのパートが集金を行うのか。鶴見線営業所の要員数変更はあるのか。	・内勤で対応となる。要員数変更はない。現行巡回の中で行って頂く。
・集札箱のセキュリティ対策を示すこと。	・現状と変わらない。今のところ盗難はない。
・鶴見線営業所は統括センターになるのか。	・回答は控える。色々検討している。鶴見線営業所だけではなく、全体を見て検討中である。
・これまでもグループ会社等に業務委託を進めている。今後も、業務委託の見直しを考えているのか。委託費削減も考えているのか。	・お客さまのご利用状況を見ながら、無人化検討や配置変更を検討する可能性はある。業務委託費については、検討を考えている。
・社員周知、教育とお客さまへの周知をどのようにしていくのか示すこと。	・これから社員周知をしていく。回金の仕方などの教育を行う。お客さま周知は、2か月前程度で、駅掲示等で行っていく。
・川崎新町駅での異常時対応はどうするのか。また、車いす対応はどのようにしていくのか。	・基本的には現行も管理駅の尻手駅で対応している。浜川崎駅はバリアフリー対応ではない。ご利用のお客さまに対しては、事前連絡を頂いてガードマン対応は現行と変わらない。
・駅業務執行体制の再構築は、今後、その3として提案を考えているのか。	・回答は控える。今現在はないが、必要ならば今後もありえる。

支社も不正乗車の認識はしています。コロナ禍での会社の進めるコスト削減も必要であると認識しているが、不正乗車対策による収入確保とご利用されるお客さまの不公平感をなくすことを、引き続き求めています！